

地域医療の現場から

大腸がんは、肝臓に転移しやすく、患者さんの約11%に肝転移がみられ、また手術を受けた人の約7%に肝転移・再発がみられます。転移がみられた場合、まず、転移の状況やどれだけ肝臓を残せるか、患者さんが手術に耐えられるかを検討します。手術が困難な場合でも、化学療法により腫瘍が縮小し、手術が可能になった場合は施行します。

転移が全て切除された場合は約30%～50%の患者さんが治る可能



外科
セコメディック病院

前村 誠

性があり、大腸癌転移に対する手術は長期予後が期待できる唯一の治療法です。転移巣の数、大きさと発生部位を正確に画像で評価し、転移巣の完全切除が可能かを判断し手術を行っています。私ができるだけ残肝予備能を温存することを心掛けています。

肝切除の安全性は切除後の残肝

大腸がんの転移性肝癌に対する治療

予備能と切除の難易度で決まりますが、転移性肝癌の場合、背景肝がほとんど正常であるため、残肝予備能の制限を受けることは少ないのです。しかし、初回肝切除後も40～80%に再発を認め、そのうち30～70%が残肝のみに再発を認

めることから、残肝再切除再々切除もかなり多くなっているのが現状です。そのため残肝予備能を考慮する手術を行うことは極めて重要と考えられています。

転移性肝癌に対する肝切除では切除断端の距離については一定の見解が得られていま

せん。そのため我々は残存肝の血管が露出する面での切離は腫瘍に接していてもその面での切離に留めています。また多発性で転移巣のうち、主病巣を切除しても残肝内の腫瘍が3個以内、大きさ3cm以下の範囲内で残存する場合などはラジオ波焼灼療法（エコー1でがんの正確な位置を確か

医療講演会

「大腸がんの転移性肝癌に対する治療」

10月21日(金) 14時/イオン千葉ニュータウン/
講師：前村誠医師/無料/
予約不要/Tel 457-9900

め肝臓に特殊な針を刺して先端から電磁波を発生させ、がんを熱で固めて焼いてしまう方法)を併用して残肝の腫瘍も治療するなどの対策を講じています。

私たちは、転移性肝がんの患者さんに手術だけで治療しようと考えているわけではなく、手術と抗がん剤という2つの治療方法を有効に用いて、従来は手術の適応外と考えられていたケースでも、積極的に手術を行っております。お悩みの方は是非ご相談ください。